

地方独立行政法人福岡市立病院機構
令和7年度第6回理事会 議事録（要旨）

- 日 時：令和7年10月28日（火）16:00～16:30
- 場 所：WEB会議（事務局：こども病院2階 市民病院4階）
- 出席者：堀内理事長（議長）、楠原副理事長、石橋理事、瓜生理事、神坂理事、平田理事、柳澤監事、近藤監事
- 議 事

【報告事項】

1 福岡市病院事業運営審議会について

<概要>

令和7年10月20日に開催された福岡市病院事業運営審議会について

（1）移転候補地について

- ①前回審議会後の対応
- ②移転候補地の概要
- ③移転候補地の評価・比較
- ④運営・施設部会 報告書

（2）今後の審議の進め方について
について、事務局より報告を行った。

<主な意見等>

- 市の方針決定は、市議会を経て決定されるのか。その際にプレスリリースみたいなことを市は行うのか。
また、将来、新病院基本構想を検討していくにあたって、今、ただでさえ人員が少ない状況にある中で、検討する組織や人材を今後確保していく予定があるのか。
- 正式な市議会での議決事項ではなく、議会への報告事項になると市からは伺っている。
- おそらく、実際に建築する時に、予算について市議会へ諮って承認を得る形になると思う。今のところの方針については、市が決めて発表することになると思う。
- プレスリリースについて、現段階で分かっていることは、審議会の会長から福岡市長に対する答申については、手交と聞いており、こちらに関してはプレスリリースされると伺っている。現時点では、方針決定時に市がプレスリリースをするのかについての把握はできていない。
- 検討する組織や人材の確保については、このまま順調に進むと令和8年度が新病院建築の骨子となる計画である、新病院基本構想を作成することとなるが、病院機構としては現在在籍している新病院調整課の2名と福岡市の病院事業を所管している病院事業課の人員が病院に入ってきて各種ヒヤリング等を行って基本構想を策定していく流れとなる。令和9年度以降においては、病院機構が主体となって、新病院の基本構想をもっと肉付けした基本計画を策定していく流れとなるため、令和9年度以降においては、順次、新病院調整課の人員を手厚くしていく。前回機構で建築したこども病院の際には、最終年度においては13名から14名程度の人員を配置していた事跡があるため、少なくとも10名以上の配置は必要になると考えている。
- 新病院の基本構想だけではなく、千早病院との統合についても進めないといけないということで、かなり事務方に負担がかかることは予測している。
- ようやく候補地の絞り込みが出来てきたが、こども病院が移転した時には、職員の中で、実働に関係していない人が1名、調整ナースとして活躍されているので、今度の計画や実行のソフト面で、千早と市民病院をつなぐ役割の看護長をフリーで1人配置すると割とやり易いのではないかと思っている。
場所的に福岡中学校跡地が候補地の一つとして加わったことは、職員にとっても、患者さん

にとっても、利便性が高いようなので、良かったと思う。

九州大学との関係については、大学と一般病院の役割は違うので、連携という点ではうまくすみ分ければメリットはある。プラスにして行かなければならないと思う。

- 千早との交渉については、スムーズにいくように看護師のことも含めて検討していきたい。

また、大学病院と市民病院とは、役割が違うことは理事の言われるとおりで、例えば徳島大学と徳島県立中央病院が道路を隔てて隣り合わせで、しかも廊下でつながっている状況で何十年も前からうまくやっていると聞いている。成功例がいくつかあると思うので、そういったところを学びながらいい形に出来るようにと思っている。